

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学11							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	1期	横山 靖		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
臨床現場ではあまり見かけない骨盤骨骨折や股関節周囲の骨折・脱臼であったが、近年スポーツ活動の普及により少しずつではあるが見かけるようになってきた。各疾患における、病態把握、診断方法、治療法を体系的に学習する。座学講義ではあるが、臨床現場での対応を充分イメージできるような症例を紹介しながら講義を展開していく。							
目標							
一般目標(GIO) <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	柔道整復師として骨盤骨・大腿骨近位の骨折や股関節脱臼を正しく理解できるようになるために、判断・治療・予後評価に必要な基礎的知識を習得するとともに、それに必要な臨床的技術を身につける。						
	到達目標(SBO) <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>	1. 骨盤骨骨折や股関節周囲の骨折・脱臼の原因を列挙できる。 2. 骨盤骨骨折や股関節周囲の骨折・脱臼の発生機序を聴取することができる。 3. 骨盤骨骨折や股関節周囲の骨折・脱臼の患者の整復、固定方法を理解することができる。					
履修に必要な予備知識や技能							
柔道整復理論の理解には運動器の構造機能の理解が必須である。「解剖学」(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)で構造機能を確認すること。予め「柔道整復学・理論編 第6版」(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)を読み予習をしておくこと。							
教科書・参考書							
「柔道整復学・理論編 第6版」(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂) 「柔道整復学・実技編 第2版」(公社)全国柔道整復学校協会(南江堂)							
受講上の注意							
「柔道整復学・理論編 第6版」「柔道整復学・実技編 第2版」を持参 講義中は携帯電話の電源を切っておくこと。							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	90					10	100
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	骨盤部の解剖と機能と骨盤骨骨折の概念			「柔道整復学・理論編 第6版」	教科書・ノート・筆記用具		
第2回	骨盤骨単独骨折			「柔道整復学・理論編 第6版」	教科書・ノート・筆記用具		
第3回	骨盤輪骨折			「柔道整復学・理論編 第6版」	教科書・ノート・筆記用具		
第4回	股関節部の解剖と機能 大腿骨近位端部の骨折部位による分類と概念			「柔道整復学・理論編 第6版」	教科書・ノート・筆記用具		
第5回	大腿骨骨頭部骨折 大腿骨頸部骨折1			「柔道整復学・理論編 第6版」P359	教科書・ノート・筆記用具		
第6回	大腿骨頸部骨折2			「柔道整復学・理論編 第6版」P359	教科書・ノート・筆記用具		
第7回	大腿骨転子部骨折			「柔道整復学・理論編 第6版」	教科書・ノート・筆記用具		
第8回	股関節脱臼の分類			「柔道整復学・理論編 第6版」P366	教科書・ノート・筆記用具		
第9回	股関節前方脱臼 股関節中心性脱臼			「柔道整復学・理論編 第6版」	教科書・ノート・筆記用具		
第10回	定期試験						
実務経験と本講義との関連について							
接骨院、整形外科にて柔道整復師として勤務してきた経験から、当科目において損傷の判断・整復・治療・評価について臨床現場で遭遇する具体例をあげ、実際の場面をイメージしやすいように講義していく							
メールアドレス							
yokoyama@nihonisen.ac.jp							